

# 令和8年度学校経営計画

学校名 三次市立塩町中学校

校長名 池田 誠

## I 学校の状況

学級数	通常学級6 特別支援学級2（知的障害1、自閉・情緒1）	計8学級
生徒数	通常学級：180名（1学年52名、2学年61名、3学年67名） 特別支援学級：10名（1学年2名、2学年7名、3学年1名）	計190名
教職員数	校長1名、教頭1名、事務長(兼)1名、教諭 名（うち他校からの兼務 名）、 養護教諭1名、主事1名、学校支援員 名、障害児介助指導員 名、非常勤講師 名、 市費事務職員1名、スクールサポートスタッフ1名、部活動指導員 名、 部活動外部指導員1名、SC1名、ALT1名	計 名
メールアドレス	shiomachi-j@school.miyoshi.hiroshima.jp	
HPアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/shiomachi-j/	

## II 学校教育目標

<校訓> 『英明堅健』 ～賢く！ 逞しく！ 学べよ 鍛えよ 心と体～（英知、明朗、堅実、健康）
--

<塩町中学校区小中一貫教育目標> 確かな学力を身に付け、他者とのかかわりを通して自らを伸ばす子供の育成
--

<塩町中学校教育目標> 挑戦と貢献 ～主体的に学び、他者と協働して課題を解決していく生徒の育成～
---

<めざす生徒像【育成を目指す資質・能力】> ・自分の夢と志を持ち、知識と経験をもとに自ら行動して貢献できる生徒 【知識・技能、思考力、主体性】 ・互いの良さを認め、目標達成のために力を合わせて課題を解決する生徒 【協働性、判断力】 ・自分の意見や考えたことを相手に工夫して伝える生徒 【表現力】
--

<めざす教職員像> ・教育公務員（公務員）としての自覚をもった教職員 ・新たなことに積極的に挑戦する教職員 ・専門性を発揮し、協働しながら組織的に職務を遂行する教職員	<めざす学校像> 「チーム塩町中」として ・課題解決、目標達成に向けて結束する学校 ・生徒、教職員が互いに切磋琢磨する学校 ・保護者、地域関係者と連携し生徒を指導・支援する学校
--	---

## III 使命・存在意義（ミッション）

本校の使命・存在意義（ミッション）	三次市東部地区の中心校として、生徒の進路実現を図り、地域の発展に貢献する。（コミュニティとつながる本質的な学びを通して）
本校の在りたい姿・将来像（ビジョン）	生徒、保護者、地域、教職員が誇り、「学んでみたい、学ばせたい、働きたい」と思われる学校。

## IV 特に育成する資質・能力「身に付けさせたい力の具体化」

○表現力…自分の意見や考えたことを、相手に工夫して伝えることができる。
○協働性…目的と目標を共有し、目標達成のために、自らの役割を理解し、他者と協力できる。
○主体性…自らの夢と志を持ち、自分から行動して新たな価値を生み出し、積極的に他に貢献しようとする。

## V 現状分析

外 部 環 境	○【支援的要因】	S【強み】	内 部 環 境
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県教委、市教委によるグ ラウンドデザイン及び具 体的施策</li> <li>・ SSR (学校内適応指導教室) の開設</li> <li>・ <u>地域の教育への高い関心 と支援・協力</u></li> <li>・ 小中の一体的な取組と高 校からの支援</li> <li>・ 海外の姉妹校、異文化間 交流活動への地域からの 支援</li> <li>・ まちづくりを担う<u>コミュ ニティ・スクールの基盤</u></li> <li>・ ICT 等の学習環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>不登校等生徒にとっての居 場所、自立をめざす場所が 学校内にある</u></li> <li>・ <u>保護者の高い学校満足度と 教育活動への協力</u></li> <li>・ 学校に対する肯定的なイメ ージ</li> <li>・ 施設・設備の充実</li> <li>・ 教育実践の蓄積</li> <li>・ 学習活動、生徒会活動、部 活動等に<u>積極的に取り組 む生徒</u></li> </ul>	
外 部 環 境	T【阻害的要因】	W【弱み】	内 部 環 境
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過疎化による児童生徒数 の減少</li> <li>・ 学区外から入学してくる 生徒の多さ</li> <li>・ 生徒間の人間関係の固定 化</li> <li>・ 遠距離やバス等、通学手 段の制約</li> <li>・ 業務の質及び量と業務効 率向上との均衡の困難さ</li> <li>・ 家庭だけで解決できない 課題の多様化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校適応の困難さによる不 登校生徒の多さ</li> <li>・ 学区という概念の薄さ</li> <li>・ 自己を表現することに苦手 意識をもつ生徒の存在</li> <li>・ <u>自己肯定感・自己有用感の 低い生徒の存在</u></li> <li>・ <u>保護者の教育、子育てに対 する意識の多様さ</u></li> <li>・ 学習習慣と学習環境の改善</li> <li>・ 基礎学力の定着(計算力と読 解力)</li> </ul>		

### 【支援的要因と強みを生 かした活動・取組】

- ・ コミュニティ・スクール  
を中心とした地域・保護  
者との協働教育
- ・ 小中一貫の系統的カリキ  
ュラムマネジメントと育  
成すべき資質・能力に係  
る評価指標の明確化⇒成  
長の実感
- ・ ICT 機器の有効活用 (個  
別最適化された学びと協  
働的な学びの実現)
- ・ 地域貢献や実体験の主体的  
な学びの推進  
(目的共有化、地域資源の  
活用・還元、地域と双方向、  
学びの実感)
- ・ 生徒主体的な学びの意図的  
な広報、情報発信

### 【阻害的要因と弱みを克 服するための解決策】

- ・ 多様性を認める望ましい集  
団づくりの強化
- ・ 実践成果の積極的な発信
- ・ 保護者による教育活動参画  
のための機会づくり
- ・ 読解力等の基礎的な力の  
確実な習得
- ・ 時間の有効活用と多様性の  
包摂ある学校づくり

### 重点事項（努力点）

- ① 生徒理解を深めるとともに、生徒指導規程に基づく一貫した指導による、安全・安心な学校体制の確立（挨拶、言葉遣い、清掃、身だしなみ、時間励行の徹底）。
- ② 小中で一貫した系統的な「探究」カリキュラム実施による育成すべき資質・能力の共有と向上。
- ③ ICTの有効活用等、具体的な授業改善と個に応じた家庭学習等の積み上げによる語彙、読解力、数的感覚等、学力の基礎の確実な習得(RST等分析結果による)。
- ④ 未知の世界に挑戦し、試行錯誤する中で、自己に対する自信醸成のための実体験重視(自然や歴史・文化、産業とのつながりの場を通して、人間としての強み、新たな価値創造等)。
- ⑤ 学校外の当事者意識を持った多様な他者と関わりながら、社会の中で活躍できる力を学んでいるという実感(「進んで協力できた」「誰かの役に立つことができた」)。

生徒が安心して過ごし自己の資質・能力を向上させることのできる学びの環境づくり  
～不登校SSR（スペシャルサポートルーム）推進校として～

### 1 自律する生徒

生徒の自己指導能力を高めるための積極的な生徒指導を徹底する。

- ・自己肯定感・自己有用感の向上 … 生徒が努力や成長を評価される活動を多く設定する
- ・不登校生徒の減少 … かかわりきる指導、綿密な連携により不登校生徒をなくす
- ・いじめの根絶 … 教育相談の充実により、いじめを100%認知し解決する
- ・規範意識の向上 … 場に応じた挨拶、心をこめた掃除に全校で取り組む

### 2 深い学びを実現する授業

生徒が学びのよさを実感し自らの力を伸ばすことのできる授業改善を図る。

- ・教科等横断の工夫 … 総合的な学習の時間を軸にしたカリキュラム・マネジメントを図る
- ・課題設定の吟味 … 逆向き設計により、生徒が学びの見通しをもつ課題を示す
- ・基礎・基本の徹底 … 習得すべき知識・技能を繰り返し学び、身に付ける機会を設ける
- ・課題に応じた指導の展開 … 個別最適な学びにつながる指導及び支援を工夫する
- ・生徒主体の学びづくり … 教師が話す時間と生徒の思考・表現の時間のバランスをとる
- ・振り返りの活用 … 生徒が自分のことばで学びを振り返るサイクルを継続する
- ・学習評価の改善 … 学習評価を適正に実施する
- ・家庭学習の充実 … 授業と家庭学習（予習・復習）をつなげる

### 3 信頼される学校

安心・安全の環境づくりを通して満足度の高い学校づくりを進める。

- ・成果の発信 … 生徒の努力や学習成果を積極的に発信し、自信と規範意識を向上させる
- ・保護者との協働 … 保護者が教育活動に参画する機会を増やし、成果や課題を共有する
- ・地域との連携 … 地域の人的・物的資源を活用した教育活動の機会を計画的に配置する
- ・教職員の意欲向上 … 業務の効率と実践の成果のバランスを組織的に追求する

## VI 中心価値・行動規範

「何のためにそれを行うのか」を主体的に判断し、行動する自律した教職員

<塩町中学校の教職員として>

～子どもの手本となる「互いを大切にし、ともに高め合う教職員集団」であるために～

- ・教職員であることを常に自覚する
- ・自ら学び続ける
- ・仲間を大事にする
- ・笑顔を心掛ける
- ・報告・連絡・相談・確認を大切にする
- ・相手意識を重んじた接遇をする（相手はどう思うかを意識した言動を）
- ・整理整頓を徹底する
- ・冷静に判断し、誠意をもって迅速に対応する
- ・根拠に基づく仕事をする
- ・組織の一員としての自覚をもって仕事をする
- ・相互理解を深め、だれもがリーダーシップを発揮して仕事をする
- ・目標達成に対し具体的に努力し客観的に評価する

## Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	成果指標	目標値	担当
確かな学力の育成	主体的な学びの創造による学力の向上	基礎・基本の学力の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習評価の充実による学びの質的向上</li> <li>教科等横断的な単元開発による授業改善の充実</li> </ul>	国・市の学力調査の平均正答率	国、市の平均値以上	教務部
				授業が「よくわかる」という意識をもつ生徒		
		育成すべき資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成された姿の明確化</li> <li>行事の充実と地域/先端体験</li> </ul>	自校の質問紙	肯定的評価80%以上	教務部
				総合質問紙調査（表現力、協働性、主体性）	母集団平均以上	
豊かな心の育成	生徒の規範意識の醸成と望ましい集団づくりの推進	生徒指導上の諸課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な対応を見据えた積極的生徒指導の推進</li> <li>生徒が安心して過ごすことのできる環境整備</li> <li>関係機関との積極的な連携</li> </ul>	年間30日以上 の欠席がある生徒数	1年:前年度比減	生徒指導部
					2、3年:新たな長期欠席者0	
		生徒の自治活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会の提案による課題解決の取組</li> <li>学校行事、地域行事への生徒の積極的参画の支援</li> </ul>	自己肯定感・自己有用感に肯定的意識をもつ生徒の割合	全学年80%以上	生徒指導部
健やかな体の育成	生活習慣の改善と体力の向上	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活調査の実施</li> <li>小中一貫保健主事部会と連動した授業の実施</li> </ul>	SNS、ゲーム等時間3時間未満及び家庭学習の時間が60分以上の生徒の割合	前年度比増加	健康安全部
					体力・運動能力調査の結果	
信頼される学校づくり	成果の発信、服務管理による学校信頼度の向上	教育成果の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種通信やHPによる敵機能的な発信</li> <li>授業、行事による学校公開の実施</li> </ul>	「子供を学校に通わせてよかった」と思う保護者の割合	全体90%以上	総務部
					業務効率化の推進	

## Ⅷ 学校経営構想図

